

美学・西洋美術史専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時
美学・西洋美術史概論	アーティストの誕生：初期近代から現代までのアートとその制度の社会史	2	足達 薫	3	月	2
美学・西洋美術史概論	美学・西洋美術史概論	2	フォンガロ エンリコ	3	水	2
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	3	水	4
美学・西洋美術史基礎講読	西洋美術史文献精読	2	森田 優子	4	水	4
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場	2	尾崎 彰宏	5	金	3
美学・西洋美術史各論	美学特論Ⅰ	2	フォンガロ エンリコ	6	水	2
美学・西洋美術史各論	エロティック革命としてのルネサンス美術	2	足達 薫	6	月	4
美学・西洋美術史各論	ネーデルラント絵画と感性の論理	2	尾崎 彰宏	6	金	3
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	5	金	4
美学・西洋美術史演習	西洋美術に関する方法論の諸問題	2	尾崎 彰宏	6	金	4
美学・西洋美術史演習	美学・西洋美術史演習	2	フォンガロ エンリコ	5	木	5
美学・西洋美術史演習	西洋美術史研究の基礎的方法（卒業論文の執筆のためのモデル）	2	足達 薫	6	月	5
美学・西洋美術史実習	西洋美術史の基礎知識と調査入門	2	足達 薫	5	火	3・4
美学・西洋美術史実習	美術作品の調査法について	2	足達 薫	6	火	3・4

科目名：美学・西洋美術史概論／Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：足達 薫 (教授)

講義コード：LB31301, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：アーティストの誕生：初期近代から現代までのアートとその制度の社会史

2. Course Title (授業題目)：The Birth of Artist: A Social History of "Art" and its System since the Renaissance

3. 授業の目的と概要：

初期近代から現代にかけての絵画や彫刻を研究するためには、アーティストとアートという概念の形成過程、意味、そしてその社会的枠組みを理解することが必要不可欠です。この授業の目的は、初期近代以降の絵画や彫刻の歴史を、特にアーティストとアートの社会的機能に焦点を定めて概観することです。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In order to study painting and sculpture from the early modern times to the present, it is essential to understand the formation process, meaning, and social framework of the concept of Artist and Art. The purpose of this class is to provide an overview of the history of painting and sculpture since the early modern era, with a particular focus on the social functions of Artists and Art.

5. 学習の到達目標：

(1) アーティストとアートという概念の形成および展開を理解すること。(2) 初期近代から現代までの絵画や彫刻を分析する具体的な観点(主題、様式および形式、素材と技法)を習得すること。(3) 例として挙げるユニークで魅力的な作品や作家を通じて、初期近代以降のアートの大きな流れを理解すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) To understand the formation and development of the concept of Artist and Art. (2) To acquire concrete viewpoints (subjects, styles and forms, materials and techniques) for analyzing paintings and sculptures from the early modern times to the present. (3) To understand the big flow of Art since the early modern times through unique and attractive works and their authors as examples.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

14 回目までを講義、15 回目を問題提起および筆記試験とします。

1. アーティストとアートの社会史：その目的と課題
2. アート・ワールドの形成とその特質
3. イコノグラフィー (1) キリスト教信仰の主題を読解するための基礎知識
4. イコノグラフィー (2) ルネサンスにおけるイメージの活用方法
5. 様式・形式の分析：作品の視覚的分析のための基本的観点
6. 署名と自画像：アーティストの誕生を示す兆候
7. アーティスト誕生前夜の美術制作：ギルランダイオ《マギの礼拝》を例にして (1)
8. 職人からアーティストへの変身：ギルランダイオ《マギの礼拝》を例にして (2)
9. 学校の教師としてのアーティスト：美術アカデミーの誕生とその影響
10. 「本物そっくり」：アーティストの自由と権威
11. 「本物そっくり」をめぐる闘いとしての 19 世紀
12. 作家性と独創性の王国としてのアート・ワールド：ファン・ゴッホ
13. アート・ワールドの縮図としてのピカソ
14. 20 世紀のアート・ワールド：デュシャンとその影響
15. アート・ワールドの未来?：試験

8. 成績評価方法：

出席と期末試験(記述式)を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で配布する資料、あるいは授業中のスライドで示します。

10. 授業時間外学習：

配布する資料(前回からの流れの確認、引用文、作品情報、さらに焦点や重要例に関するポイントをまとめたもの)を手がかりにして、自分で授業を再現できるかどうか試すという予習ないし復習をおすすめします。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

授業の前後に相談を受け付けます。連絡、質問、相談、研究室訪問については下記アドレスに e メールを送ってくださってもかまいません。kaoru.adachi.d1@tohoku.ac.jp (□はアットマークに変えて送ってください)

科目名：美学・西洋美術史概論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lectur

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB33203, 科目ナンバリング：LHM-ART202J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美学・西洋美術史概論

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics and History of European Fine Arts (General Lecture)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学と西洋美術史の基本的な知識を得た上で、その翻訳の問題について理解する。東洋の美学との比較するための基盤をつくる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to acquire basic notions about Western aesthetics and its history, and to understand the translation's problems related to this topic, in order to create a base for a comparison with Eastern aesthetics.

5. 学習の到達目標：

美、美的経験など、美学の基本的概念について古代ギリシャから現代までを概観する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

This course aims to introduce some fundamental concepts related to aesthetics, such as "beauty", "aesthetic experience" and so on, from the Greek antiquity till contemporary thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 美学とは何か
2. 「美」とは何か
3. 調和としての美 (1)
4. 調和としての美 (2)
5. 調和としての美の批判 (3)
6. 快楽としての美 (1)
7. 快楽としての美 (2)
8. アイデアとしての美 (1)
9. アイデアとしての美 (2)
10. アイデアとしての美 (3)
11. 悟性を超える美 (1)
12. 悟性を超える美 (2)
13. 美と崇高 (1)
14. 美と崇高 (2)
15. 試験

8. 成績評価方法：

定期試験 (100%)。

9. 教科書および参考書：

授業中に適宜資料を配布する。

10. 授業時間外学習：

Some materials will be handed during the lessons.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：森田 優子（非常勤講師）

講義コード：LB33407, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：

欧文文献の精読を行い、美術作品を研究する基礎を身に着ける。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for the research of art works.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 試験

8. 成績評価方法：

授業への出席・発表 (60%)、試験 (40%)

9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.

10. 授業時間外学習：

授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史基礎講読／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Introductory R

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：森田 優子（非常勤講師）

講義コード：LB43407, 科目ナンバリング：LHM-ART206J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術史文献精読

2. Course Title (授業題目)：Intensive Reading of Western Art History

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の研究を行う上で基礎となる欧文献の精読を行い、美術作品研究の基礎を身に着ける。そのうえで、古典語、フランス語、ドイツ語、イタリア語などにも目配りできるようになることが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course aims to improve the students' ability to read English texts in detail and their necessary knowledge for research of art works and to introduce the students to read the texts in other languages.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史に関する英語文献を正確に読めるようになるとともに、英語以外の言語についても調べられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The aim of this course is that students read accurately English texts of western art history and read the reference books in other languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション

2. 講読 (1)

3. 講読 (2)

4. 講読 (3)

5. 講読 (4)

6. 講読 (5)

7. 講読 (6)

8. 講読 (7)

9. 講読 (8)

10. 講読 (9)

11. 講読 (10)

12. 講読 (11)

13. 講読 (12)

14. 講読 (13)

15. 試験

8. 成績評価方法：

授業への出席・発表（60%）、試験（40%）

9. 教科書および参考書：

イタリア・ルネサンスにかんする美術作品についての文献を精読する。

Textbook: A variety of reading texts about Italian Renaissance art will be used.

10. 授業時間外学習：

授業前に自分の分担部分を和訳し、それ以外の部分にも目を通しておくこと。

Students are required to read the designated textbook and translate its own assigned part for each class.

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB55303, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ネーデルラント美術における共感表現、スペクタクル、美術市場

2. Course Title (授業題目) : Empathy representation in the Netherlandish art, spectacle, art market

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術の創造性がどのように生まれたのかを探っていききたい。その問題と並行して、感性論としての美術史としてアルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのかアルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていきたい。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおよその見取り図を示すようにしたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Currently, one of my research topics is "Research on geopolitical economic history of markets, distribution, and artisans in Western art since the Renaissance". I would like to explore how the creativity of Netherlandish art was born while raising the research results. In parallel with that problems, as a history of art as the theory of sensibility, a new attempt of "visual" seen in art works north of the Alps, how tactile elements are reflected in various artists' works, such as Giuseppe Arcimboldo and Hieronimus Bosch, I would like to approach their efforts while taking various Netherlandish painters as examples.

5. 学習の到達目標：

美術作品の解説には、時代によってさまざまなアプローチがなされてきたが、鑑賞者の感性が作品解釈に大きなウェイトを占めること理解し、美術作品にアプローチする新たな方法論を学べる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Various approaches have been made to decipher art works. but students establish their own ideas how to understand the sensitivity of the viewer has an impact on interpretation for a large amount of works and learn new methodology to approach art works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第3回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第4回 15世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第5回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第6回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第7回 16世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第8回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅰ

第9回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅱ

第10回 17世紀ネーデルラント絵画Ⅲ

第11回 レンブラントⅠ

第12回 レンブラントⅡ

第13回 レンブラントⅢ

第14回 18世紀ネーデルラント絵画

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

レポート／出席／試験を総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

講義中に指示する。

10. 授業時間外学習：

講義で取りあげた文献に自分で当たったり、紹介された作品を自分で見に行く努力が必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：フォンガロ エンリコ (准教授)

講義コード：LB63207, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美学特論 I

2. Course Title (授業題目)：Aesthetics(Advanced Lecture I)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を読み、理解する。この文献に基づき、美学の専門的なテーマについて分析、考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The course aims to read and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse and reflect on topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対照しながら、美学の専門的なテーマについて分析、考察を行う。本年度は、ハイデガーの美学を中心に取り上げ、芸術作品とは何かについて特に論ずる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, and analysed by the students. This year, the course will deal with the question of what is a work of art, focusing on Heidegger's aesthetics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入 西洋美学史とは
2. 導入 現代美学について
3. ハイデッカーと 20 世紀の哲学
4. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(1)
5. ハイデッカーの美学：『芸術作品の起源』(2)
6. 『芸術作品の起源』：芸術作品とは
7. 『芸術作品の起源』：物と作品 (1)
8. 『芸術作品の起源』：物と作品 (2)
9. 『芸術作品の起源』：物と作品 (3)
10. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (1)
11. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (2)
12. 『芸術作品の起源』：作品と真理 (3)
13. 『芸術作品の起源』：芸術家とは
14. 『芸術作品の起源』：美的経験とは
15. 期末試験

8. 成績評価方法：

定期試験 (100%)。

9. 教科書および参考書：

マルティン・ハイデッカー、『芸術作品の起源』。

10. 授業時間外学習：

Martin Heidegger, Der Ursprung des Kunstwerkes.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：足達 薫 (教授)

講義コード：LB61405, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：エロティック革命としてのルネサンス美術

2. Course Title (授業題目)：Renaissance Art as an "Erotic Revolution"

3. 授業の目的と概要：

近年、イタリア・ルネサンス美術の研究では、同時代の「エロティック革命」(性愛やそれが産み出すユーモアを肯定的に捉える新しい文化的意識)との関連性が注目され、多くの新しい発見がなされています。この授業では、美術と身体的愛が強く結びついた興味深い事例を分析しながら、イタリア・ルネサンスに関する新しい観点と研究方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In recent years, research on Italian Renaissance art has focused on the relationships with the 'erotic revolution' (a new cultural consciousness that positively considers sexuality and the humor it produces), and has made many new discoveries. In this class, students learn new perspectives and research methods on the Italian Renaissance while analyzing interesting cases where art and physical love are firmly linked.

5. 学習の到達目標：

(1) イタリア・ルネサンス美術を「エロティック革命」として捉える新しい研究動向を理解すること。(2) 身体的愛に関連する絵画や彫刻を視覚的に分析するための観点および方法を習得すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

(1) To understand new research trends that regard the Italian Renaissance art as an 'erotic revolution'. (2) To learn viewpoints and methods for visually analyzing paintings and sculptures related to physical love.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

全 15 回の講義を行います。なお、資料作成の過程で内容および順番を変更することがあります。また、性行為や性的部位を露骨に表す描写や作品はしばしば差別的であり、不快感を与える可能性があること(授業では可能な限り中立的で客観的に解説します)を理解したうえで受講してください。

1. プロローグ：チェッリーニ『自伝』における美術と愛
2. 展覧会「ルネサンス期イタリアにおける美術と愛」(2008)の意味
3. 古代彫刻の魅惑と魔力
4. オウィディウス『変身物語』とイタリア・ルネサンス
5. 聖愛と俗愛のパラドックス
6. 生活空間 (1)：恋人たちの寝室
7. 生活空間 (2)；書斎
8. 生活空間 (3) 浴室
9. 生活空間 (3) 出産
10. 愛のメディアとしての肖像画
11. 男根礼賛
12. 同性愛のイメージ
13. キリストのセクシュアリティ
14. ポルノグラフィの誕生
15. エピローグ：再びチェッリーニ『自伝』へ

8. 成績評価方法：

出席状況 (30%)と課題レポート (2 回予定、70%)を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

作品と引用をまとめた資料を配付します。参考書等は授業で指示します。

10. 授業時間外学習：

とりあげる美術家や美術作品(授業で予告します)に関して図書やウェブで概観しておくことで授業の理解が進みます。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business

12. その他：

授業の前後に相談を受け付けます。連絡、質問、相談、研究室訪問については下記アドレスに eメールを送ってくださってもかまいません。kaoru.adachi.d1@tohoku.ac.jp (□はアットマークに変えて送ってください)

科目名：美学・西洋美術史各論／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Special Lectur

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB65303, 科目ナンバリング：LHM-ART302J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：ネーデルラント絵画と感性の論理

2. Course Title (授業題目) : Netherlandisch Paintings and the Logic of Sensibility

3. 授業の目的と概要：

現在、研究を進行させている「西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究」の研究成果を盛りこみながら、ネーデルラント美術がその背景をなす美学とどのような関係をもちながら、生みだされたのかを探っていききたい。その問題と並行して、アルプス以北の美術作品に見られる「視覚」の新しい試み、つまりいかに触覚的な要素が美術作品に反映しているのか、アルチンボルドやボッスなどさまざまなネーデルラントの画家を例に取りながら、アプローチしていききたい。受講生は、美術作品を通して、その時代の美学とそれがどのように社会や文化の形成にかかわって行ったのかを学ぶことになる。

現在研究中の課題であり、1回目の授業において、特論のおおよその見取り図を示す。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Currently, one of my research topics is "Research on geopolitical economic history of markets, distribution, and artisans in Western art since the Renaissance". I would like to explore how the creativity of Netherlandish art was born while raising the research results. In parallel with that problems, as a history of art as the theory of sensibility, a new attempt of "visual" seen in art works north of the Alps, how tactile elements are reflected in various artists' works, such as Giuseppe Arcimboldo and Hieronimus Bosch, I would like to approach their efforts while taking various Netherlandish painters as examples.

5. 学習の到達目標：

美術作品とその時代の美学を学ぶアプローチは多様である。この授業では、鑑賞者の感性が作品解釈にどのようにかわるのか、受容美学の視点から考えてみたい。そこから、芸術がどのようなアクチュアリティをもつのかを考え、新たな美学理論の可能性を探りたい。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Various approaches have been made to decipher art works. but students establish their own ideas how to understand the sensitivity of the viewer has an impact on interpretation for a large amount of works and learn new methodology to approach art works.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：15世紀前半のネーデルラントにおける美術市場の誕生 I

第3回：15世紀後半のネーデルラントにおける美術市場の誕生 II

第4回：16世紀南部ネーデルラントにおける美術市場の展開 I

第5回：16世紀北部ネーデルラントにおける美術市場の展開 II

第6回：偶像破壊運動と絵画ジャンルとそこに見られる美学

第7回：偶像破壊運動と絵画ジャンルの多様化と芸術論 II

第8回：17世紀オランダにおける美術市場と新たな美意識の誕生

第9回：17世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代 I

第10回：ルーベンスの芸術論 第9回：17世紀オランダにおける美術市場の発展と絵画の黄金時代 II

第11回：ルーベンス工房と絵画市場 II

第12回：レンブラント工房と絵画市場 I の芸術論

第13回：レンブラント工房と絵画市場 II

第14回：南北一デルランの絵画市場から18世紀フランスへ——自由の美学の誕生へ

第15回：まとめ

定期試験は行わない。

8. 成績評価方法：

出席状況、課題のレポート、テストを総合的に評価する

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

講義で紹介した文献を自分で参照したり、美術館で作品を実際に見たりする作業が必要。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB55406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術に関する方法論の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Multifaceted problems of methodology on Western art history

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We will pick up journal papers and topics of research on Western art history, carefully read them, learn about the problems and research methods that can be utilized for research, and will continue discussions. We mainly focus on papers published in The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be familiar with research trends of art works since the Renaissance, while in touch with the latest research in Western art history. As well as acquiring criticism and ability to analyze works, students will acquire the skill to carefully read English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席／平常点／レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：尾崎 彰宏（教授）

講義コード：LB65406, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術に関する方法論の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Multifaceted problems of methodology on Western art history

3. 授業の目的と概要：

西洋美術史の雑誌論文や話題になった研究書を取りあげ、それを熟読し、その問題点や研究上活用できる研究方法について学び、議論を重ねていく。The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek に掲載された論文を中心に取りあげる。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

We will pick up journal papers and topics of research on Western art history, carefully read them, learn about the problems and research methods that can be utilized for research, and will continue discussions. We mainly focus on papers published in The Art Bulletin, Simiolus, Netherlands Kunsthistorisch Jaarboek.

5. 学習の到達目標：

西洋美術史の最新研究にふれながら、ルネサンス以降の美術作品の研究動向を熟知できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be familiar with research trends of art works since the Renaissance, while in touch with the latest research in Western art history. As well as acquiring criticism and ability to analyze works, students will acquire the skill to carefully read English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 イントロダクション

第2回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅰ

第3回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅱ

第4回 イタリア・ルネサンス美術関係文献Ⅲ

第5回 ネーデルラント美術関係文献Ⅰ

第6回 ネーデルラント美術関係文献Ⅱ

第7回 ネーデルラント美術関係文献Ⅲ

第8回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅰ

第9回 17世紀オランダ美術関係文献Ⅱ

第10回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅰ

第11回 17世紀フランドル美術関係文献Ⅱ

第12回 近世・近代美術関係文献Ⅰ

第13回 近世・近代美術関係文献Ⅱ

第14回 近世・近代美術関係文献Ⅲ

第15回 まとめ

8. 成績評価方法：

出席／平常点／レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教室で指示する。

10. 授業時間外学習：

欧文の論文を前もって予習してくる必要がある。最新の論文であるから予習には相当の時間をかけて勉強することが求められる。また、そこで論じられていること、あるいは派生することを考えていくために、関連文献にあたることを求められる。発表者は学期に一度、担当論文を全訳する必要があり、計画的に自主的な勉強を続ける必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史演習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：フォンガロ、エンリコ（准教授）

講義コード：LB54502, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美学・西洋美術史演習

2. Course Title (授業題目) : Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

3. 授業の目的と概要：

西洋美学の重要文献の原文および日本語訳を精読し、理解する。美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論をする能力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The course aims to read carefully and understand important texts concerning Western aesthetics, in original language or translated in Japanese. The students will improve their ability to analyse, give presentations and discuss about topics related to aesthetics.

5. 学習の到達目標：

西洋美学の重要文献について取り上げ、原文および日本語訳を対象しながら、美学の専門的なテーマについて分析、発表し、議論を行う。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The course will be based on an important text concerning Western aesthetics, that will be read in original or in Japanese translation, analysed and discussed by the students.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ドゥルーズとは誰か
2. ドゥルーズとシネマ
3. 『シネマ 1』：運動に関するテーゼ
4. 『シネマ 1』：フレームとショット
5. 『シネマ 1』：モンタージュ
6. 『シネマ 1』：モンタージュ
7. 『シネマ 1』：イメージとは
8. 『シネマ 1』：知覚イメージ
9. 『シネマ 1』：感情イメージ
10. 『シネマ 1』：欲動イメージ
11. 『シネマ 1』：行動イメージ
12. 『シネマ 2』：時間イメージ
13. 『シネマ 2』：時間イメージ
14. 『シネマ 2』：時間イメージ
15. 試験

8. 成績評価方法：

授業中に指示した文献に関する口頭試験（100%）。

9. 教科書および参考書：

ジル・ドゥルーズ、『シネマ 1、運動イメージ』、『シネマ 2、時間イメージ』。

10. 授業時間外学習：

Gilles Deleuze, Cinema 1, L' image-mouvement; Cinema 2, L' image-temps.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

毎回の授業後に、授業でとりあげた映画を見るのが必須である。映画の上映については授業時に詳しく説明する。

科目名：美学・西洋美術史演習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Seminar)

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：足達 薫 (教授)

講義コード：LB61502, 科目ナンバリング：LHM-ART306J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術史研究の基礎的方法 (卒業論文の執筆のためのモデル)

2. Course Title (授業題目)：

Exercise of basic methods of art history research (a model for writing a graduation thesis)

3. 授業の目的と概要：

この授業の目的は、西洋美術史研究の基礎的方法 (視覚的作品の分析、文献資料の批判的読解) に関する訓練を行いながら、卒業論文の執筆のためのモデル (特に課題およびテーマの発見) を習得することです。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this class is to provide a model for writing graduation theses (especially discovering assignments and themes) while training on basic methods of Western art history research (analysis of visual works, critical reading of literature).

5. 学習の到達目標：

西洋美術史研究のために必要な視覚的作品の分析および文献資料の批判的読解の方法の訓練を通じて、研究論文に要求される基本的事項 (問いの立て方、調査と分析の観点および方法) を理解し、卒業論文のための基盤的能力を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

The purpose of this class is, through exercises on the methods of analyzing visual works and critical reading of literature necessary for studying Western art history, to understand the basic items required for research papers (how to ask questions, perspectives and methods of research and analysis), and to acquire the basic skills for graduation thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

課題 (調査、分析、文章執筆、プレゼンテーション) を立て、それへの報告や発表を行います。なお、参加者数および習得レベルに応じて変更する場合があります。

1. オリエンテーション
2. 美術史学の方法論
3. 美術作品の視覚的分析 (1) 解説
4. 美術作品の視覚的分析 (2) 実践
5. イコノグラフィー (1) 解説
6. イコノグラフィー (2) 実践
7. 文献資料の批判的読解
8. 一次資料をいかに読むか
9. 二次資料をいかに読むか
10. 問いの立て方
11. 仮想テーマの発表 (1)
12. 仮想テーマの発表 (2)
13. 仮想テーマの発表 (3)
14. 仮想テーマの発表 (4)
15. 仮想テーマの発表 (5)

8. 成績評価方法：

平常評価 (各回での報告や分析に見られる参加度。単なる出席回数ではありません。評価全体の 30%) および発表評価 (仮想テーマの発表における準備の度合い。評価全体の 70%) を総合して評価します。

9. 教科書および参考書：

授業で指示します。

10. 授業時間外学習：

毎回の課題に関する報告、分析、執筆、発表とその準備が必要です。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

授業の前後に相談を受け付けます。連絡、質問、相談、研究室訪問については下記アドレスに e メールを送ってくださってもかまいません。kaoru.adachi.d1@tohoku.ac.jp (□はアットマークに変えて送ってください)

科目名：美学・西洋美術史実習／Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時. 前期 火曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：足達 薫 (教授)

講義コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：西洋美術史の基礎知識と調査入門

2. Course Title (授業題目)：Basic Understanding of Western Art History and Introduction to its Research Methodology

3. 授業の目的と概要：

西洋美術分野の基礎知識を身につけるとともに、美術作品の調査法を身につける。同時に博物館・美術館をいくつか見学し、展示法などについて考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

In this course students will acquire a basic knowledge about Western Art History and practice basic methods of surveying art works. This course offers an opportunity to visit some museums and to think about their displays.

5. 学習の到達目標：

美術作品の作品記述、写真撮影、カタログ化などをひととおり自分で行えるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students can study how to describe art works, how to take a photograph by themselves

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、発表の仕方、展覧会評の書き方
2. 展覧会見学
3. 写真撮影の仕方
4. 調書の作り方、作品記述の方法
5. 発表
6. 展覧会見学
7. 学術文献、論文の探し方
8. 小テスト、発表
9. 小テスト、発表
10. 展覧会見学
11. 小テスト、発表
12. 小テスト、発表
13. 小テスト、発表
14. 小テスト、発表
15. まとめ

※展覧会の開催日程により、予定変更となる場合あり

8. 成績評価方法：

レポート、テスト、出席などを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

授業時間内に指示する。

10. 授業時間外学習：

表の準備、小テスト対策（復習）、展覧会評の提出

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

12. その他：

科目名：美学・西洋美術史実習／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Laboratory Wor

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時. 後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：足達 薫 (教授)

講義コード：LB62305, 科目ナンバリング：LHM-ART307J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名： 】

1. 授業題目：美術作品の調査法について

2. Course Title (授業題目) : How to look at art works and to discuss them deeply.

3. 授業の目的と概要：

◆授業内容：美術史は何よりも作品観察から出発する。この作品をどのように観察し、それを言葉で表現するか、そのためにはどのようなアプローチが必要かを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Art history departs from the work observation more than anything. Students learn how to observe the work and express it in words, and what kind of approach is necessary for that. Students plan Imaginary Exhibitions and actually make catalogus.

5. 学習の到達目標：

美術作品にかんするより高度な観察力と記述力を養うことができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students can develop more sophisticated observational and descriptive abilities for art work.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 はじめに

第2回 空想の美術展の作成のための準備 I

第3回 空想の美術展の作成のための準備 II

第4回 空想の美術展のタイトルについて

第5回 空想の美術展のコンセプト I

第6回 空想の美術展のコンセプト II

第7回 美術館へ作品見学 I

第8回 空想の美術展の作品選定 I

第9回 美術館へ作品見学 II

第10回 空想の美術展の作品選定 II

第11回 美術館へ作品見学 III

第12回 空想の美術展の中間報告

第13回 空想の美術展の仕上げ

第14回 美術館へ作品見学 IV

第15回 空想の美術展の合評会

8. 成績評価方法：

出席／平常点／レポートを総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

授業時間に指示する。

10. 授業時間外学習：

できるだけ美術館、博物館に足を運びじかに作品に接するようにする。できれば、ヨーロッパの美術館へ出かけることができる。大きく視野が広がる。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

